

原発事故と人材育成

2017年1月

NHK 解説委員 水野倫之



政府は先月、福島第一原発の事故対応費が 20 兆円を上回る見通しを示した。中でも 8 兆円と最もコストがかかるとされたのが廃炉費。なぜこんなにかかるのか。1 基数千万円の汚染水タンクは漏えいが相次ぎ作り直しを余儀なくされたほか 350 億円をかけた凍土壁も効果がはっきりしない。そして今月、東電は核燃料デブリの取り出しに向けて 2 号機で格納容器内のロボット調査を行うが、放射線が極めて強くここまでののに 1 年半遅れと難航を極めた。今後燃料の取り出しや最終処分も含めればさらにコストが膨らむことは確実。これらを着実に進めるには資金だけでなく、技術、そしてそれを生み出す人材が欠かせない。40 年はかかるとされ、福島の人たちの帰還にもかかわるだけに、今後廃炉人材の育成を急ぐことが求められている。